

教育の理念

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、駒澤大学建学の理念である仏教の教えと禅の精神に則り、グローバル化の進む世界におけるさまざまな問題を多角的にとらえる広い視野、複雑化・高度化の進むメディアを経由して大量のコンテンツが流れるしくみを理解し使いこなす知識とスキル、及び学問領域にとらわれない自由な発想力と果敢な実行力を持つ人材を育成する。これを実現するため、当学部は、以下に掲げる「3つのリテラシー」を基礎としたうえで、社会科学系の諸学問分野を中心に、人文科学系および情報科学系にわたる幅広い学問分野で専門教育を行う。

グローバル・メディア・スタディーズ学部が基礎と位置付ける「3つのリテラシー」

- セカイのことば：ビジネスやその他の「現場」で実用に足るレベルの英語
- キカイのことば：高度情報化社会を生き抜くために必要なコンピュータと情報のリテラシー
- シャカイのことば：巷に流通するさまざまな情報を読み解き自ら発信していけるメディアリテラシー

当学部は、当学部で学ぶ学生が、知識の習得にとどまらず、学内外の実践を通じて主体的に学び、身につけた合理的な思考力と深い人間性をもって、世界の人々と力を合わせ、困難な課題に果敢に挑戦し、よりよい世界の実現に貢献していくことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、本学の教育理念に基づいて定められた下記の5つの能力を身につけ、所定の期間在学し、本学部が定める所定の単位を修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1) 建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

仏教の教えと禅の精神に基づき、自分をより高める自己形成と学問研究を密接に関連して行うことができる駒澤大学の学生としてのアイデンティティを備え、深い人間性をもってよりよい世界の実現に貢献する意欲を有している。

(DP2) 幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

当学部の学問的基盤となる諸分野（経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学等）の科目を幅広く履修し、新たな知の創造に結びつける力を身につけ、グローバル市民として多様な文化・価値観を理解し、他者を尊重することができる。

(DP3) 情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

理論と実践の両面から、グローバルな課題を見出して解決への道筋を追究するための情報分析力、論理的思考力、そして問題解決能力を備えている。

(DP4) コミュニケーション能力〔技能、思考力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

十分な語学力、とりわけ、実質的なグローバル・コミュニケーション・ツールである英語を使い

こなす力を備え、グローバルな環境において、レポートや論文等の文章読解・作成、およびプレゼンテーションを行い、自らの考えを論理的かつ明確に伝え、他者と主体的に協働していく能力を備えている。

(DP5) 専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

自ら選んだ専門領域、及びその関連領域における専門知識に基づいてメディアとコンテンツの本質を理解し、地球規模の問題解決に資する研究・分析・提案の能力を身につけている。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点												
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性	
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を实践する力		○						◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎						○	○	○	○	◎	○
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○							
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎					○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	○	○	○					◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

グローバル・メディア・スタディーズ学部は、学位授与の方針を満たす人材を育成するため、多様な専門科目の習得が可能となる柔軟な履修制度を採用し、学生の自主的判断で学習計画を作成出来るようなカリキュラムを提供する。このため、「教育の理念」に掲げる「3つのリテラシー」を身につける基礎科目を設けたうえで、種々の専門領域（経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学等）にわたる学際的科目を配置する。学生は、これらの中から自ら中核となる分野を選んで深く学ぶとともに、関連する諸分野の科目を履修し、自らの幅を広げていくことが期待される。さらに、これらの科目を基礎として、実践的な就業力を育成するための科目も提供する。

1. 教育内容

- 1) 仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識と深い人間性を身につけることを目標とした「仏教と人間」を必修科目として開講する。
- 2) 初年次教育として、専門教育の基礎となる、グローバル化と高度情報化が進む現代社会で活躍するための必須能力（英語、情報リテラシー、メディアリテラシー）を必修科目として設定する。実用に足るレベルの英語力を修得させるため、外国人教員を中心とした少人数制の英語教育を行う。
- 3) 経済学、経営学、社会学、国際文化論、国際関係論、法学、メディア学、情報学等にわたる専門科目群を設ける。それぞれの領域に関連する科目を系統的に選択必修科目として提供し、学際的な学びの基本とする。
- 4) 専門分野をより深く学習できる機会を与えるために、演習科目（ゼミ）を2年次から設定する。
- 5) グローバルな現場の第一線で活躍する専門家を講師に招く講義を実施し、学びを実践に活かす術を

修得できる機会を提供する。

- 6) キャリアデザインの専門家を招き、卒業後のキャリアを自ら主体的にデザインしていくための科目を提供する。
- 7) 海外留学先で取得した単位を卒業単位として認定するだけでなく、海外企業でのインターンシップ、海外でのボランティア活動等に関しても、審査に合格したものは卒業単位として認定する（海外演習実践講座）。また、海外研修の準備学習と帰国後の振り返り学習についても、専門教育科目（Study Abroad）を通じて卒業必要単位として認定する。
- 8) 国内外のさまざまな教育機関等と連携し、学内にとどまらない学修の場を設け、多様な学びを可能にする。

2. 教育方法

- 1) 当学部の特徴である多様な専門科目を柔軟に組み合わせることで履修できるようにするとともに、留学などの機会を十分に活用することができるよう、 Semester制を採用する。
- 2) 長期・短期の留学、海外インターンシップなどの海外経験を可能とするために、幅広い専門分野の科目は、2年次以降柔軟に履修できるように設定する。
- 3) 大学の外部との連携により産業界の今を知り、学生の就業力を高め、さらにはグローバル化の進む社会における経済成長の一端を担うリーダーを育成するため、最新のメディア、コンテンツ、IT、文化産業などを含むさまざまな実務の現場から第一線で活躍する専門家をゲスト講師として招き、専任教員との共同作業による授業を実施する。
- 4) 意欲と能力を備えた学生にさらなる学びの機会への道を開くため、一定の条件の下で、3年間の在学中で卒業し、本学大学院グローバル・メディア研究科（修士課程）に進学できる早期卒業制度を設ける。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修 単位	配当 学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
駒澤 人 育 成 基 礎 プ ロ グ ラ ム 全 学 共 通 科 目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自立的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語教育	1	1・2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT教育	2	1			◎			ICTスキルおよびICTリテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2~4	1~4		◎		○		多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1・2	1・2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
健康・スポーツ分野	1・2	1~4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。	
専 門 教 育 科 目 等	専門基礎（英語）	2	1-2		◎			○	実用に足るレベルの英語力の習得。
	専門基礎（情報リテラシー）	2	1		◎			○	実践的なICT能力の習得。
	専門導入（メディアリテラシー）	2	1	◎	○	◎	○	○	メディアとコンテンツを理解するための基本的教養の習得。
	専門導入（導入ゼミ）	2	1	◎	○	◎	○	○	ゼミ学習のための準備。
	専門（必修）	2	1-4	○		◎	◎	○	必須の専門知識を身につける。
	専門（選択必修）	2	1-4	○		◎	◎	○	一定の選択肢の中から専門知識を選んで身につける。
	専門（選択）	2	1-4	○		◎	◎	○	より深い専門知識を身につける。
	専門（演習、卒業研究）	2	2~4	○	○	◎	◎	○	ゼミ形式により、研究及び卒業論文の指導を行う。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

グローバル・メディア・スタディーズ学部では、駒澤大学入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行います。

1. グローバル・メディア・スタディーズ学部の求める学生像

- (AP1) 高等学校の教育課程を幅広く修得していること。特に「英語」及び「情報」について、大学での学修に必要な知識、理解、技能を有すること。〔知識、理解、技能〕
- (AP2) 世界のさまざまな問題や身近な社会の課題に対し幅広い視点から関心を持ち、自ら選んだ領域において、大学で深く学び、身につけた力をその改善のために用いようとする意欲を有すること。〔意欲、関心、態度〕
- (AP3) 合理性をもってものごとを考え、人間性への深い理解をもって判断し、状況と目的に応じてそれらを適切に伝えることができる力を有すること。〔思考力、判断力、表現力〕
- (AP4) 世界のさまざまな地域において、また身近な社会の中において、自分とは異なる多様な人々が存在することを理解し、彼らとともによりよい世界を実現するために協働していく能力を有すること。〔主体性、多様性、協働性〕

2. 入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

- ・グローバル社会におけるコミュニケーション能力の獲得に向けて、授業以外でも英語圏の報道や映像に触れる、英語を話し聞く機会を作るなど、英語4技能の運用能力の高度化に努める
- ・日常触れている「情報」を誰がどのように発信し伝えているか、どのような技術によってそれが行われているかについて関心を持ち、メディアや技術の適切な利活用に注意を払いつつ情報収集・発信を行う
- ・日頃からさまざまなメディアの報道に触れ、学校で学んだ知識と照らし合わせながら、世界のさまざまな地域において、また身近な社会の中において、自分とは異なる多様な人々が存在するという意識を持ち、グローバル社会における課題に目を向ける
- ・興味を持ったテーマについて合理性をもった思考を用いて課題発見・分析に取り組み、その成果をまとめる
- ・部活動、留学、ボランティア等の活動を通じ、多様な他者と協働して目標を達成、もしくは課題解決に取り組む

3. 求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	T方式	教科	◎		○		
	S方式	教科	◎		○		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		○		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。
		小論文	◎				
		面接・口頭試問	○	○	◎	○	
	特性評価型(A方式)	出願書類	◎	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。特に、高等学校在学中に取得した資格や取り組んだ活動等、特殊技能に秀でた学生を積極的に受け入れる。
		面接・口頭試問	○	○	◎	○	
	特性評価型(B方式)	出願書類	◎	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学部の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。特に、情報収集・分析能力、プレゼンテーション能力等に秀でた学生を積極的に受け入れる。
プレゼンテーション		○	○	◎	○		
スポーツ推薦選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的とする。競技部の部長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	○	○	◎	○	
指定校推薦選抜	指定校推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
附属高等学校等推薦選抜	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特に理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で学内でリーダーシップを発揮できる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
社会人特別選抜	社会人特別選抜	出願書類	○	○			社会人に大学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づくりに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		小論文	○	◎	○	○	
		教科	◎				
		面接・口頭試問	○	◎	○	◎	
帰国生特別選抜	帰国生特別選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		筆記	○	◎	○	○	
		教科	◎				
		面接・口頭試問	○	◎	○	○	

外国人留学生 選抜	出願書類	○	○			国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れにより、学内の多様性を確保し活性化を図る。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。
	日本留学試験(成績)	○				
	筆記	○		○	○	
	面接・口頭試問(英語)	○	◎	○	○	
編入学者選抜	出願書類	○	○			大学入学後の進路変更や社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。
	筆記	○	○	○	◎	
	教科	◎				
	面接・口頭試問	○	○	○	◎	
指定校編入学 者選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。
	面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	